

当期の概況

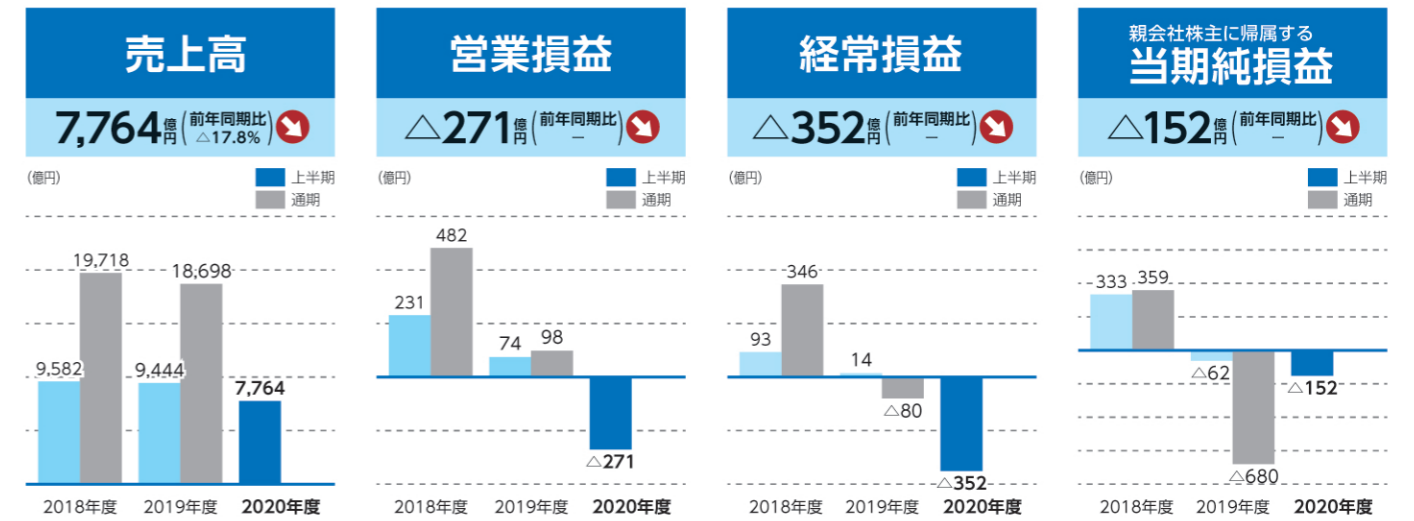
鋼材の販売数量は、自動車をはじめ全般的に需要が減少したことから、前年同期を下回りました。アルミ板の販売数量は、飲料用缶材向けは堅調に推移しました。IT半導体向けの需要が、データセンター向けのディスク材や半導体製造装置向けのアルミ厚板などの需要が増加したことから前年同期を上回った一方、自動車向けの需要が大幅に減少したため、全体では前年同期並となりました。

素形材では、自動車向けの需要減少の影響が大きく、サスペンションやアルミ押出、銅板、鉄粉などで販売数量が減少しました。同じく航空機向けや一般産業向けのチタンや、造船向けの鍛鋼においても販売数量が減少しました。

油圧ショベルの販売台数は、新型コロナウイルス感染症の影響により需要が大きく減少したことから前年同期を下回りました。

この結果、当上半期の売上高は前年同期比1,680億円減収の7,764億円となり、営業損益は前年同期比345億円悪化の271億円の損失、経常損益は前年同期比367億円悪化の352億円の損失となりました。特別損益は、減損損失を計上した一方、固定資産売却益などを計上し136億円の利益となり、親会社株主に帰属する四半期純損益は、前年同期比89億円悪化の152億円の損失となりました。

業績ハイライト(連結)



事業別売上高(2020年度上半期)

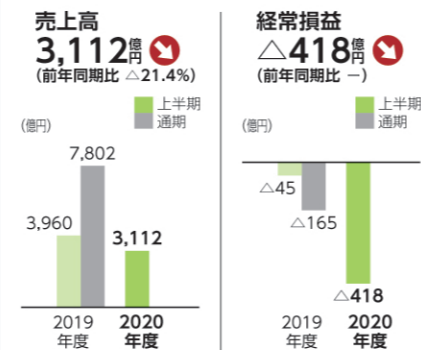


- 鉄鋼アルミ 39%
- 素形材 13%
- 溶接 4%
- 機械 11%
- エンジニアリング 7%
- 建設機械 20%
- 電力 5%
- その他 1%

(注) 上記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高等の消去額270億円を差し引いた金額が、連結売上高の合計額7,764億円となります。なお、各事業別の比率は、各事業の売上高の合計をもとに算出しております。

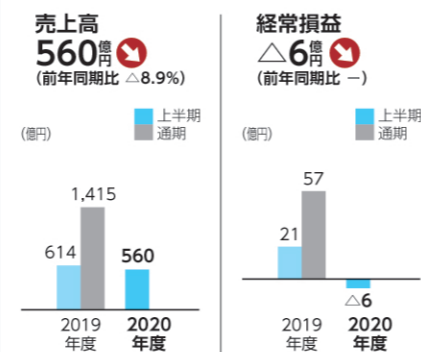
鉄鋼アルミ

薄板コイル



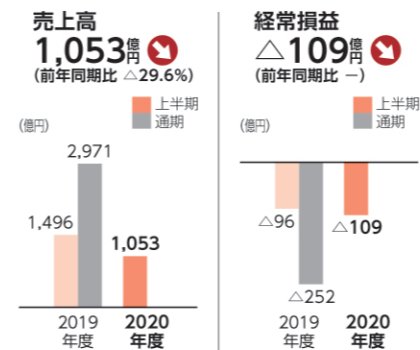
エンジニアリング

MIDREX®プラント



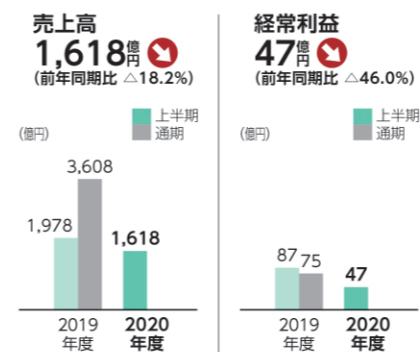
素形材

組立型クランクシャフト



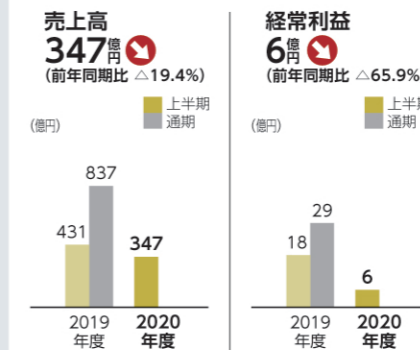
建設機械

林業仕様機
テレスコピッククローラークレーン



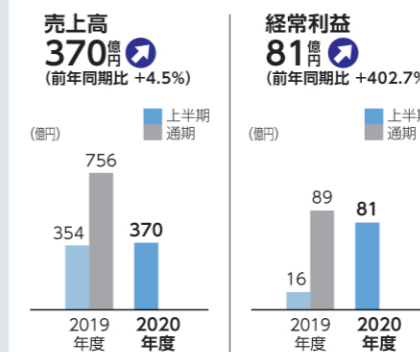
溶接

ARCMAN-GS



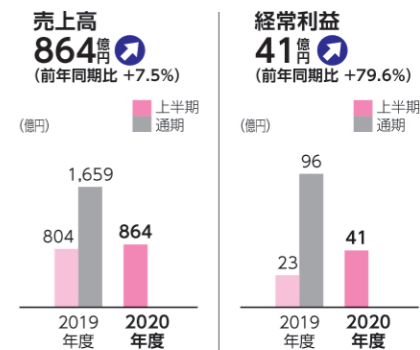
電力

真岡発電所見学施設「みらいん(Meline)」



機械

スクリュ式 非汎用圧縮機



その他

透過型電子顕微鏡を用いた研究(コペルコ科研)

